

大阪船員保険病院だより



新年のご挨拶 地域の皆様に愛される病院を目指して



院長 別府 慎太郎

みなさん、明けましておめでとうございます。

院長の別府です。昨年の正月の「大阪船員保険病院だより」には、この1年の目標を「患者さんの目線」としました。全てのことを、「患者さんの目線」で進める。患者さんの立場を理解し尊重して医療を行うと書いています。私たちの病院の理念は「優しさと安心の医療で人々につくします」ですが、そのことを認識して診療にあたるように職員全体に伝えていきます。何よりも患者さんには、自分の身体はこの病院に任せておけば安心と思ってくれるよう、医師も、看護師も、技師も、薬剤師も、医事事務員も、施設部も全ての部門が意識して勤務しています。如何でしょうか。足りないところは改めていくことを

厭いませので、ご指摘頂ければ幸いです。

病気の方、健康に不安を感じている方を手当するには、病院の力だけでも、また開業医の先生方の力だけでも不完全です。病院の特性は、入院設備と検査設備と外科的治療を備えている点でしょうか。日々のきめ細やかな診療に関しては、開業の先生方にとっても敵うものではありません。それ故、地域の皆さん方の健康や病気の治療には診療所と病院との協力が大切だということによく知られたことです。このような協力関係を「病診連携」といいますが、診療所から病院への紹介率やその逆方向の逆紹介率も増えてきており、この地域の医療がだんだんと上手くいっているのではないかと安心しています。今年はさらに協力体制を密にしていきたいと思っています。患者さん側からは見えにくいと思いますが、例えば「地域医療談話会」や「症例検討会」を定期的に開催し、開業医の先生と病院側がお互いコミュニケーションを取り合い、患者さんの診療がスムーズに行くように工夫しているのです。開業の先生方から「患者さんが急変したので・・・」などの入院要請があれば、いつでも対応出来るよう準備はしています。

私たちの病院を受診頂いている患者さんには何よりも気持ちよく受診して頂くことが肝心です。診療内容以外にも出来るだけの配慮をと、以前の狭い売店を車いすの方も入りやすいように広い部屋に移動し、かつ業者には入院生活に必要な物品の品揃えにも気を遣って貰い、全体として「コンビニ」風に致しました。薬局前のロビーも自動販売機などを充実させ、ゆっくりと休んで頂けるようになりました。古い建物ですが、それでもアメニティには気を配りたいと思います。患者さんには関係ないことですが、女性職員用に病児保育室を新たに設置しました。育児に係わっている女性は職に就くこと自体大変ですが、ましてやそのお子さんの具合が悪くなれば仕事どころではありません。そのような職員にも安心して就業して貰えるように設置したものです。職員に余裕が出来れば回り回って患者さんへのサービスにつながるのです。

今年も、昨年同様、皆さんに愛される病院を目指しています。この病院があるから安心といわれるように、今年もがんばります。

大阪船員保険病院は、地域の皆さんの病院です。

眼瞼下垂について ～ 最近マブタが重くありませんか？ ～ 形成外科 川上善久

最近何となく、まぶたが重くなってきていませんか？

重く感じていても「年のせいだから…」と諦めていませんか？

それは眼瞼下垂という病気かもしれません。眼瞼下垂は適切な診察と治療で治る病気です。

眼瞼下垂とは

眼瞼下垂（がんけんかすい）とは**眼瞼（まぶた）**が下垂、すなわち**下に垂れ下がって**しまうという病気です。

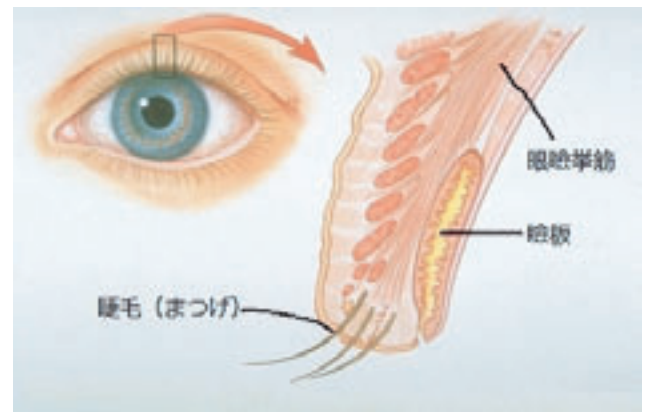
年をとるにつれて、まぶたを上げる筋肉が緩んでしまうために、程度の差はありますが、**誰にでも必ず現れてきます**。

眼瞼下垂がおこるとまぶたが垂れ下がるために物が見えにくくなったり、目が疲れしたりします。さらに進行すると顎をあげないと物がよく見えなくなったり、肩が凝るなどの症状がでてくることもあります。

眼瞼下垂の原因には、いろいろなものがあります。大きく分けると先天性（生まれつき）と後天性（生まれつき以外）に分けられます。

今回は後天性の眼瞼下垂について説明をしたいと思います。

まず、まぶたの構造ですが、右の図のように、まぶたの先端には**瞼板（けんばん）**という軟骨のような組織があります。そこに**眼瞼挙筋**というまぶたを上げる筋肉が付いています。この**筋肉と瞼板との付着部はかなりデリケート**なために**目を強くこすったり、押さえたりすると外れてしまうことがあります**。



コンタクトレンズを長期間使用（概ね10年以上）していると、ここが外れてしまい、眼瞼下垂の原因となることがあります。ソフトレンズよりもハードレンズを使用している方に多いようです。

また、現在では仕事や日常生活でパソコンなどに触れる機会が増えてきていますが、パソコンなどで目の酷使することによっても眼瞼下垂が引き起こされることもあります。さらにアレルギーや花粉症などで目をこすってしまったたり、メイクで目を触りすぎたりしても眼瞼下垂になってしまうこともあります。

加齢によるものもあり、上にも書きましたが、**加齢によってまぶたを上げる筋肉が緩んでしまうために眼瞼下垂になります**。これは老化現象の一種ですので、避けることはできません。しかし、**適切な治療を受けることによってほぼ改善します**。

後天性眼瞼下垂は必ずしも高齢者の方だけに現れる病気ではありませんので、気になる症状がありましたら専門医の受診をお勧めいたします。

治療

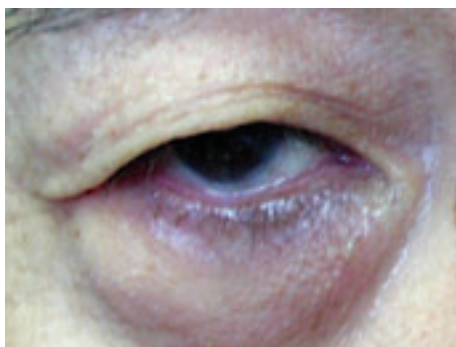
当院では保険診療での手術治療を行っています。まぶたの二重になる部分を切り、眼瞼挙筋を短くするように瞼板に縫合します。こうすることにより今まで眉毛を上げてまぶたを開いていた状態がなくなるためにまぶたが下がってきます。そうするとまぶたの皮膚が余りますので、ちょうど良い二重になるように余った皮膚を切除します。形成外科は顕微鏡などを用いて手術をする技術に優れています。その技術を用いて眼瞼下垂の手術を行っています。顕微鏡を使った手術により術後の腫れを最小限に抑える努力をしていますが、多少の腫れは避けられません。片側だけ、もしくは片側ずつの手術であれば外来手術でも可能ですが、**両側を同時に手術するのでしたら、1週間程度の入院をしていただいた方が安心**です。

最後に

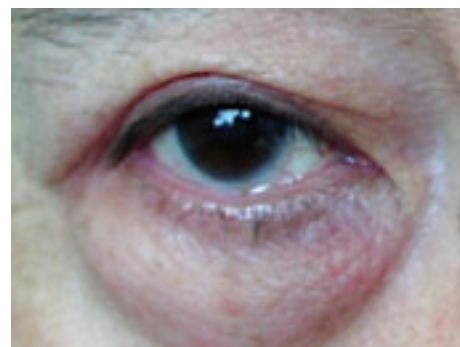
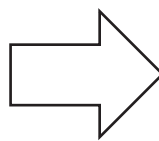
40歳半ばになると、男女を問わず（個人差はありますが）、遅かれ早かれ、**眼瞼下垂の症状は訪れます**。

眼科的には問題がなくても、若い時に比べ、**目が疲れる、物が何となく見えづらい、肩が凝るなどの症状がある場合は、眼瞼下垂の可能性が十分にあります**。

保険適応の手術で手術を行うことができ、ついでに二重まぶたにもなります。美容外科などで相談される前に、まず形成外科を受診してみてください。



手術前



手術後

（患者様の同意を得た上で掲載しています。）

大阪船員保険病院の理念

理念：やさしさと安心の医療で人々につくします

基本方針：1. 患者さんの立場にたった適切な医療を提供します

2. 地域に信頼される中核病院をめざします

3. 患者さんの権利を尊重します

4. 地域の医療機関との連携を推進します

5. 病院職員は、より高度の医療を提供できるよう研鑽に努めます

6. 病院経営の効率化を図り、健全経営に努めます

登録医紹介

地域に密着した家庭医をめざして

笹尾 医院

皆様こんにちは。港区の朝潮橋駅近くで開業しております笹尾医院の出雲谷 剛です。当院は港区で私が4代目で、2007年より引き継いでおります。私は大阪市立大学第2内科の出身で、糖尿病とその合併症である循環器疾患や腎病変を診ておりました。現在は大阪市立大学総合医療センターにも所属し、研修医や研究医の地域医療教育も行なっております。

小児から高齢者まで、幅広く診察をしており、地域に密着した家庭医を目指しております。ワクチンも各種そろえており、在宅での往診も行なっております。

近くに総合病院である大阪船員保険病院があり、安心して患者さんを紹介できるので、非常に助かっております。



診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 16:30~19:30	○	○	/	○	○	/

診察科：内科、小児科、外科、整形外科

TEL：06-6571-0259

住所：大阪市港区池島1-2-14

H P：http://www.ne.jp/asahi/sasao/clinic/

痛みで苦しまずに人生を楽しむ

かわぐちクリニック

皆様こんにちは。平成22年5月に弁天町みなと通りのりそな銀行並びに、痛みという苦しみを取り除き、苦痛から解放された人生を皆様にとって頂くことを願い開業致しました。30年近くペインクリニックという、痛みを取り除く医療を行なってまいりました。痛みは怪我や椎間板ヘルニアなどの体にダメージを受けたばかりでなく、人生の悩みを誰にも理解してもらえず、痛みという形で表現せざるを得ず苦しまれている方も多くおられます。そのような方のお話もじっくり拝聴させていただきます。当クリニックでは注射だけでなく日本初導入のボディソニック（体感音響装置）でリラックスして頂きながら、光線療法、低周波療法も行なっております。漢方薬、その他の内服湿布薬でこれらの苦しみを取り除き、楽しい人生を送って頂きたいと考えております。往診も開始しましたのでぜひご利用ください。今後も近隣の大阪船員保険病院などとも密接に協力して治療させていただきますので宜しくお願い致します。



診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 16:00~19:00	○	○	○	/	○	/

診察科：麻酔科、リハビリテーション科

TEL：06-6586-6873

住所：大阪市港区磯路1-1-3

H P：http://www.k-painclinic.com/